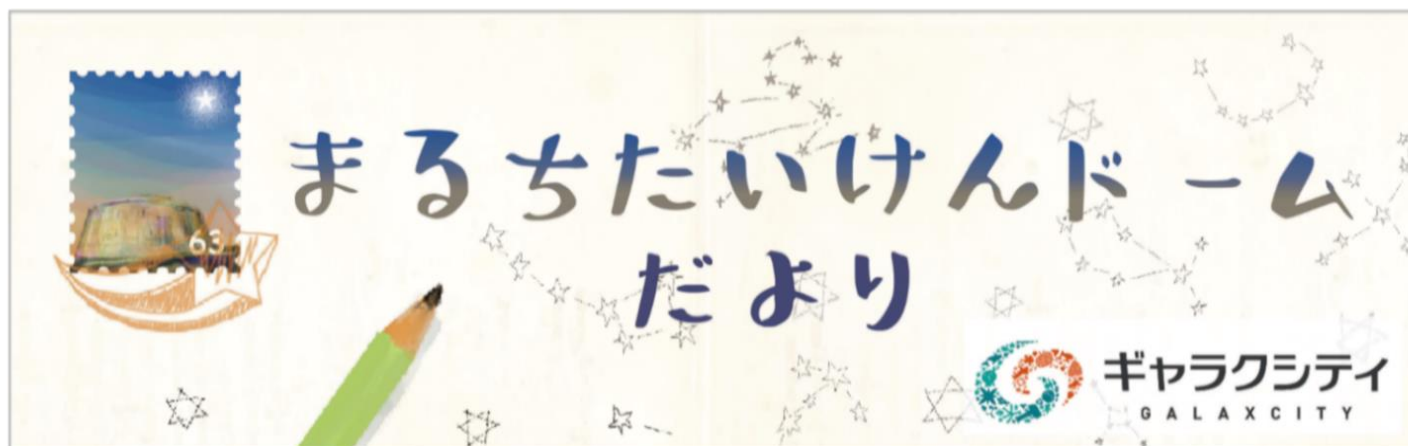




カノープスを見よう

1月の末頃になると、「りゅうこつ座の1等星カノープスが見えた」ということが話題になります。日本からも中国からも見にくい星なのですが、中国では南極老人星と呼ばれ有名です。七福神の一人、寿老人または福祿寿のこととされ、見た人の寿命を延ばすのだそうです。人の寿命は生きている間は分かりませんから、このことは検証不可能です。でも、寿命が延びるとは縁起の良い感じがしますね。

ではカノープスは足立区からでも見えるのでしょうか。それが、意外に良く見えるのです。カノープスは天の赤道より53度も南にありますので、計算では足立区（北緯35.8度）から見ると地平線から1.5度の高さまでしか上りません。腕を一杯に伸ばした時に見える自分の人差し指の爪の幅が2度といわれますので、これはそうとう低い位置です。しかし、地球の大気には地平線付近の星を浮き上がらせて見える効果（大気差といいます）があり、3度くらいまで上がって見えるようになります。このため、実際カノープスは南中（真南を通る）時刻の前後1時間くらいは見えています。

日付(2022年)	南中時刻
1月31日	21時33分
2月10日	20時43分
2月20日	20時04分
3月1日	19時29分

ギャラクシティでのカノープスの南中時刻

カノープスを見るためには、南側が開けた場所が有利です。水平線の見える海岸近くなら申し分ありません。もちろん南の方へ行けばその分高く上がって見えます。沖縄県的那覇市（北緯26度）では11度くらい、千葉県館山（北緯35度）では4度くらいまで上ります。逆に北では、福島市（北緯37.8度）あたりまでは見えたという記録がありますが、仙台市（北緯38.3度）から見えることはありません。

地球の自転軸の向きは長い時間をかけて変化します。この変化を歳差と言います。このため、カノープスが足立区から見られるのは、紀元前1500年頃から、紀元3000年頃までです。カノープスを見るのに現在は好都合ですから、ぜひごらんください。

2022年1月28日記（解説員：田部 一志）